

平成 28 年 2 月期 第 3 四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成 28 年 1 月 14 日

上場会社名 株式会社柿安本店 上場取引所 東
 コード番号 2294 URL <http://www.kakiyasuhonten.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 赤塚 保正
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 赤塚 義弘 (TEL) 0594 (23) 5500
 四半期報告書提出予定日 平成 28 年 1 月 14 日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有・無
 四半期決算説明会開催の有無 : 有・無

(百万円未満切捨て)

1. 平成 28 年 2 月期第 3 四半期の連結業績 (平成 27 年 3 月 1 日～平成 27 年 11 月 30 日)

(1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28 年 2 月期第 3 四半期	31,109	△0.4	1,402	△5.7	1,419	△6.6	820	15.3
27 年 2 月期第 3 四半期	31,220	2.5	1,487	4.0	1,519	5.0	711	△3.2

(注) 包括利益 28 年 2 月期第 3 四半期 811 百万円 (9.5%) 27 年 2 月期第 3 四半期 740 百万円 (△2.0%)

	1 株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益
28 年 2 月期第 3 四半期	円 銭 72.22	円 銭 —
27 年 2 月期第 3 四半期	60.05	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
28 年 2 月期第 3 四半期	百万円 17,345	百万円 12,498	% 72.1
27 年 2 月期	19,519	14,009	71.8

(参考) 自己資本 28 年 2 月期第 3 四半期 12,498 百万円 27 年 2 月期 14,009 百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第 1 四半期末	第 2 四半期末	第 3 四半期末	期 末	合 計
27 年 2 月期	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 —	円 銭 42.00	円 銭 42.00
28 年 2 月期	—	0.00	—		
28 年 2 月期(予想)				42.00	42.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有・無

3. 平成 28 年 2 月期の連結業績予想 (平成 27 年 3 月 1 日～平成 28 年 2 月 29 日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1 株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通 期	44,000	1.2	2,580	2.4	2,570	0.5	1,420	8.2	130.20

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有・無

※. 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有・無
 新規 一社 (社名) , 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有・無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有・無

② ①以外の会計方針の変更 : 有・無

③ 会計上の見積りの変更 : 有・無

④ 修正再表示 : 有・無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	28年2月期3Q	12,446,700株	27年2月期	12,446,700株
② 期末自己株式数	28年2月期3Q	1,540,627株	27年2月期	600,555株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	28年2月期3Q	11,360,806株	27年2月期3Q	11,846,198株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明, その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	4
4. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日において、当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済・金融政策を背景に、輸出企業を中心とした業績や雇用環境に改善が見られる等、緩やかな回復基調で推移いたしました。一方で、新興国経済の下振れや輸入原材料の価格上昇等の懸念の他、個人消費の回復に勢いはなく、都市部と地方の消費意欲に差が見られ、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような環境の中、当社グループは、更なる商品の上質化を図るため、自社ブランド牛「柿安牛」のリブランディングを実施、併せてお値打ち感のある商品施策を地域ごとに拡げる等、お客様の多様化するニーズへの対応を行いました。また、「ミラノ国際博覧会」日本館レストランへの派遣をはじめ、次世代リーダーの育成にも注力しております。

出退店、改装につきましては、和菓子事業「口福堂」19店を含め計23店を出店するとともに11店の改装を行う一方で、9店を閉鎖いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は31,109百万円(前年同期比0.4%減)、営業利益は1,402百万円(同5.7%減)、経常利益は1,419百万円(同6.6%減)、四半期純利益は820百万円(同15.3%増)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(a) 精肉事業

精肉事業につきましては、生産から加工まで一貫して管理した高品質で安心・安全な自社ブランド牛「柿安牛」をリブランディング。更に品質を高めながらも従来よりも価格を抑えることで、よりお値打ち感のあるこだわり商品として、積極的な商品提供に取り組みました。また、日常使い商品である牛小間切れや切落とし等、内容の見直しを行った商品についても地域や店舗特性を見ながら展開を拡充する等、精肉事業の活性化を図りました。

この結果、当事業の売上高は10,662百万円(前年同期比0.6%増)、セグメント利益は740百万円(同13.1%減)となりました。

(b) 惣菜事業

惣菜事業につきましては、カキフライを量り売りから個数売りに切り替え、販売方法を見直すと共に、毎月1と2のつく日をカキフライの日とする等、販売促進の強化を図りました。また、「牛鍋弁当」の販売を新たに開始、店舗や地域特性に応じた取り組みとして展開エリアを拡大しております。

出店につきましては、「横浜高島屋ダイニング」に続いて「あべのハルカス近鉄本店ダイニング」を出店いたしました。

この結果、当事業の売上高は8,948百万円(前年同期比2.0%減)、セグメント利益は810百万円(同13.3%増)となりました。

(c) 和菓子事業

和菓子事業につきましては、基幹商品であるおはぎの地域特性にあわせた取り組みを開始した他、わらび餅の販売方法をバック販売から個数売りに切り替える等、少量多品目をお求めになるお客様ニーズへの対応を進めております。またフルーツ大福シリーズでは、大人気(定番)商品である「いちご大福」の早期投入を行い、季節商品の販売強化による活性化を図りました。

この結果、当事業の売上高は5,046百万円(前年同期比8.9%増)、セグメント利益は334百万円(同25.3%増)となりました。

(d) レストラン事業

ビュッフェレストラン三尺三寸箸では、料理コンテスト2015最優秀賞受賞作品「ハロウィンの晚餐、ポークリブのブレゼ カボチャのドゥフィノワーズ添え～オレンジソースと共に～」をはじめとした期間限定メニューをご提供する等、季節を感じるコーナー演出への取り組みを強化いたしました。

出退店につきましては、1店の改装及び1店の閉鎖をいたしました。

この結果、当事業の売上高は3,885百万円(前年同期比11.1%減)、セグメント利益は197百万円(同21.7%減)となりました。

(e) 食品事業

食品事業につきましては、健康志向のお客様にご好評いただいている「うすだき牛肉しぐれ煮」、「減塩牛肉しぐれ煮」とともに、惣菜の組み合わせギフト等、お客様のニーズにお応えする商品開発に継続して取り組み、その拡充を図りました。

この結果、当事業の売上高は2,567百万円(前年同期比3.3%増)、セグメント利益は342百万円(同1.6%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ2,174百万円減少し、17,345百万円となりました。

流動資産は2,244百万円減少し、9,200百万円となりました。主な要因は、現金及び預金の減少3,041百万円と仕掛品の増加361百万円及び売掛金の増加360百万円等であります。固定資産は70百万円増加し、8,144百万円となりました。主な要因は、機械装置及び運搬具の増加31百万円及び工具、器具及び備品の増加28百万円等であります。

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ663百万円減少し、4,846百万円となりました。

流動負債は567百万円減少し、4,008百万円となりました。主な要因は、未払法人税等の減少520百万円等であります。固定負債は95百万円減少し、837百万円となりました。主な要因は、長期借入金の減少112百万円等であります。

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ1,511百万円減少し、12,498百万円となりました。主な要因は、自己株式の取得による減少1,824百万円と利益剰余金の増加322百万円等であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、平成27年4月13日に発表いたしました「平成27年2月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」に記載しております予想から変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成27年3月26日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法をポイント基準から給付算定式基準へ変更するとともに、割引率の決定方法を従業員の平均残存勤務期間に近似した債券の利回りに基づく割引率を使用する方法から、退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、第1四半期連結会計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を変更しております。なお、この変更による四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(法人税等の税率の変更等による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正)

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成27年法律第9号)及び「地方税法等の一部を改正する法律」(平成27年法律第2号)が平成27年3月31日に公布され、平成27年4月1日以後に開始する連結会計年度から法人税率等の引下げ等が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の35.3%から平成28年3月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異等については32.3%に、平成29年3月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異等については31.5%となります。

この税率変更による影響は軽微であります。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,536	4,495
受取手形及び売掛金	2,996	3,356
商品及び製品	273	331
仕掛品	202	564
原材料及び貯蔵品	192	190
繰延税金資産	207	225
その他	36	36
流動資産合計	11,445	9,200
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,355	3,363
土地	2,282	2,282
その他(純額)	714	767
有形固定資産合計	6,353	6,413
無形固定資産		
その他	110	141
無形固定資産合計	110	141
投資その他の資産		
投資有価証券	282	270
繰延税金資産	172	151
差入保証金	763	777
退職給付に係る資産	142	127
その他	248	262
投資その他の資産合計	1,610	1,589
固定資産合計	8,074	8,144
資産合計	19,519	17,345
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,239	1,613
未払金	376	385
未払法人税等	605	85
未払費用	997	977
賞与引当金	356	534
役員賞与引当金	42	31
その他	959	379
流動負債合計	4,576	4,008

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年11月30日)
固定負債		
長期借入金	362	250
資産除去債務	467	491
その他	103	96
固定負債合計	933	837
負債合計	5,510	4,846
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,269	1,269
資本剰余金	1,074	1,074
利益剰余金	12,337	12,660
自己株式	△817	△2,641
株主資本合計	13,863	12,362
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	54	55
退職給付に係る調整累計額	90	80
その他の包括利益累計額合計	145	136
純資産合計	14,009	12,498
負債純資産合計	19,519	17,345

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年3月1日 至平成27年11月30日)
売上高	31,220	31,109
売上原価	16,177	16,156
売上総利益	15,043	14,953
販売費及び一般管理費	13,556	13,551
営業利益	1,487	1,402
営業外収益		
受取利息	2	2
受取配当金	1	1
受取ロイヤリティー	7	—
工事負担金等受入額	8	10
その他	25	19
営業外収益合計	45	34
営業外費用		
支払利息	7	5
その他	6	11
営業外費用合計	13	16
経常利益	1,519	1,419
特別利益		
固定資産売却益	0	—
投資有価証券売却益	—	7
特別利益合計	0	7
特別損失		
固定資産除売却損	6	10
減損損失	171	42
その他	0	8
特別損失合計	178	62
税金等調整前四半期純利益	1,341	1,365
法人税、住民税及び事業税	709	532
法人税等調整額	△79	12
法人税等合計	630	545
少数株主損益調整前四半期純利益	711	820
四半期純利益	711	820

(四半期連結包括利益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成26年3月1日 至 平成26年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年3月1日 至 平成27年11月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	711	820
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	29	0
退職給付に係る調整額	—	△9
その他の包括利益合計	29	△9
四半期包括利益	740	811
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	740	811
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

(自己株式の取得)

平成27年6月25日開催及び平成27年11月10日開催の取締役会決議により、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき自己株式の取得を実施いたしました。

この結果、第2四半期連結会計期間において自己株式が850,000株(取得価額1,648百万円)増加、当第3四半期連結会計期間において自己株式が90,000株(取得価額176百万円)増加し、当第3四半期会計期間末における自己株式は1,540,627株(発行済株式総数に対する所有株式数の割合12.38%)となっております。これにより、当第3四半期会計期間末において自己株式が2,641百万円となりました。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日至平成26年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	精肉事業	惣菜事業	和菓子 事業	レストラン 事業	食品事業	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	10,603	9,128	4,633	4,370	2,484	31,220	—	31,220	—	31,220
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	1,129	14	83	46	233	1,507	—	1,507	△1,507	—
計	11,733	9,142	4,716	4,417	2,717	32,728	—	32,728	△1,507	31,220
セグメント利益	851	715	267	252	348	2,435	—	2,435	△948	1,487

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、全社催事等であります。

2. セグメント利益の調整額△948百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△980百万円及びその他調整額32百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「精肉事業」、「惣菜事業」、「和菓子事業」及び「レストラン事業」において、店舗設備の減損損失をそれぞれ5百万円、20百万円、14百万円、131百万円計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において、171百万円であります。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自平成27年3月1日至平成27年11月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	精肉事業	惣菜事業	和菓子 事業	レストラン 事業	食品事業	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	10,662	8,948	5,046	3,885	2,567	31,109	—	31,109	—	31,109
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	1,059	14	68	23	196	1,362	—	1,362	△1,362	—
計	11,722	8,963	5,114	3,909	2,763	32,472	—	32,472	△1,362	31,109
セグメント利益	740	810	334	197	342	2,426	—	2,426	△1,024	1,402

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、全社催事等であります。
 2. セグメント利益の調整額△1,024百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,060百万円及びその他調整額35百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
 3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

「惣菜事業」、「和菓子事業」及び「レストラン事業」において、店舗設備の減損損失をそれぞれ11百万円、11百万円、19百万円計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において、42百万円であります。

(重要な後発事象)

当社は、平成28年1月14日開催の取締役会において、固定資産の一部（主に建物）について老朽化した施設を撤去し、今後、駐車場として再利用するため、除却撤去工事（平成28年2月除却完了予定）を行うことを決議いたしました。

この結果、平成28年2月期の第4四半期連結会計期間において、特別損失（固定資産除却損）として58百万円（概算）を計上する予定であります。

なお、この特別損失には、当該建物等の除却損のほか現時点で見込まれる解体費用等を含んでおります。